

五島中央病院ニュース

病院の理念

五島の地域医療に貢献し、患者様に信頼される病院をめざします。

目標

- 一、患者様中心の医療
- 二、安全な医療
- 三、質の高い医療
- 四、健全なる経営
- 五、救急医療の充実

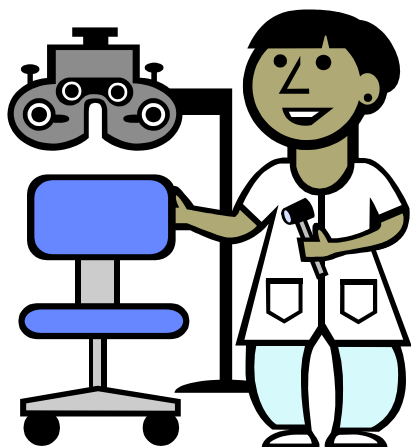
基本方針

- 一、患者様にわかりやすい言葉で説明します。
- 二、検査や治療については患者様の同意を得て実施するように努めます。
- 三、医療水準の向上に努めます。
- 四、病診連携、保健・福祉機関との連携に努めます。

目次

1. 眼科より

2. 4階南病棟より



1. 眼科より

○外来

眼科専門医1名の診療体制となっております。

科長 高畑 太一

出身大学 長崎大学 平成13年卒

診療受付時間：月～金曜日の8時～11時

○診療内容

眼科が扱う病気は、アレルギー性結膜炎、ドライアイなどの眼の表面の病気、白内障などの中間部の病気、網膜血管閉塞症、加齢黄斑変性症などの眼底の病気、その他には緑内障、ぶどう膜炎など非常に多くの病気があります。また、糖尿病性網膜症や高血圧性眼底疾患など他科の病気と密接に関わる病気もあります。

緑内障や糖尿病性網膜症は、昔から視力が低下する病気として有名ですが、そのほかに日本人の視力低下の原因として最近増えてきている病気に加齢黄斑変性症という病気があります。眼底には視細胞（錐体細胞）が多く集まっている黄斑という部分があり、ここには血管はほとんどありませんが、この病気に罹ると脈絡膜新生血管という弱い血管が生じ、出血などをおこすために視力が低下します。もともと欧米人に多くみられた病気でしたが、生活習慣の欧米化に伴って日本人の患者も増えてきており、特にたばこが良くないといわれています。症状としては中心が霞んで見えたり、歪んで見えたりします。当科では抗血管内皮増殖因子抗体を眼内に注射することによって新生血管を退縮させる治療を行っています。

手術に関しては、大学病院医師が月2回出張し、件数は限られますが、緑内障手術や硝子体手術（糖尿病性網膜症、黄斑前膜など）も行っております。可能な限り島内での加療ができるよう努力したいと考えておりますが、手術に緊急を要する場合などは長崎大学病院などにご紹介しております。

当院眼科は一人体制のため、日によってお待たせすることもありますので、できるだけ予約受診をお願いしています。もちろん急変時には予約外受診にも対応いたします。

○病棟

白内障手術、緑内障手術、硝子体手術などや、眼感染症の治療、ぶどう膜炎や視神経炎に対するステロイド治療などでは入院治療をしておりますが、原則として3階南病棟に入院して頂いております（外科、泌尿器科との混合病棟）。

2. 4階南病棟より

4階南病棟は、整形外科、耳鼻咽喉科の混合病棟です。整形外科医師3名、耳鼻咽喉科医師1名、看護師18名、看護助手3名、食事介助5名で治療看護にあたっています。ベッド数は50床で、整形疾患が45床、耳鼻咽喉疾患が5床の割合で入院治療看護が行われています。

整形外科においては、午前中3名の医師が外来診療し午後から手術、また、耳鼻咽喉科においても水木金には全身麻酔での手術が午後から予定されており、共にハードなスケジュールとなっています。

看護スタッフは、術前術後の看護及び処置はもちろんのこと、入院から退院までのケア及び医師、リハビリテーション科、地域医療連携室と協力して（週1回の合同回診）患者様の社会復帰への手助けをしています。他部門との協力連携も必須です。病床の8床を亜急性期病室として設け、自宅や施設などに退院する患者様のリハビリがやや長期にできるという利点もあります。耳鼻咽喉科疾患ではターミナル期（終末期医療）治療看護も行われています。

両科とも手術が主ですが幅広い疾患にも対応し、患者様が1日でも早く退院できるよう、また、患者様が安全に安心して治療看護が受けられ、満足して退院できるよう努力しています。とにかく、患者様を含めたコミュニケーションを大切に、笑顔の耐えない、信頼される病棟を目指して頑張っています。

○追記

最近、交通事故で入院される方が増えています。くれぐれも交通ルールを守り、自分や人を守りましょう。

